

インターバンクの声（2017 年 5 月 23 日）

週明け東京市場のドル円は、前日の北朝鮮のミサイル発射に、もう少し強い反応があるかと思われたが、東京市場が本格的に動き始める前のオセアニア市場で 110 円 85 銭を付けた後は 111 円台前半から中盤までの静かな相場展開となった。その後のロンドン、ニューヨーク市場でも相場に影響を与えるような材料もなく、動きがほとんどない時間が続いた。

市場は引き続きロシアを巡るトランプ大統領の一連の疑惑を気にしており、米政治の先行きが不透明なことを考えるとドルは買いにくい。ただ、昨夜も 23 日に発表される米予算教書への警戒感なのか、米長期金利が低下した時に一時 111 円を割り込む場面もあったが、今のところ市場全体がドルを大きく売り込む雰囲気はない。

その一方、昨夜もユーロの上昇が顕著だった。週末に 100 ポイントほど上昇したので、2 日続けての大幅上昇はないかと思われたが、メルケル独首相がユーロを「弱すぎる」と発言したことから再び 100 ポイントほど上昇した。さすがに 1.12 ドル台後半は昨年の 7 月下旬から 10 月上旬にかけて暫くこう着した水準でもあり、オプションに絡む売りが出やすく、3 日連続での大幅上昇は難しそうに見える。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。